

授業科目表

「学生生活ハンドブック(2016名古屋経済大学短期大学部)から」

〔6〕 授業科目の履修について

本学では、教育目標（P. 5）のように、建学の精神に基づいた人物教育、保育の学際的研究及び学生の主体的な学習を通して、すぐれた力量を持った保育者を養成することをめざしています。このため、授業科目（教育課程）は、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得できるように構成されており、それぞれの取得条件にしたがい、所定の単位を修得することによって、それらを同時に取得することができるようになっています。

したがって、授業科目の履修にあたっては、卒業と同時に、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得できるよう自らの履修計画を立てるとともに、それらの取得に向けて日々努力しなければなりません。その際には、近い将来、乳幼児の成長に関わる保育者となりうる立場として、その自覚と使命感を持ち、保育職としての深い人間的教養と専門的知識・技能を高めるよう努力することが大切です。

授業科目表（P. 28～30）には、「卒業最低単位数」「教員免許状最低単位数」「保育士資格最低単位数」という3つの区分があり、●等の印によってそれぞれの条件が説明されています。この表と、「幼稚園教諭二種免許状の取得条件」（P. 32・33）「保育士資格の取得条件」（P. 34～37）を常に照らし合わせながら、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の双方を取得できるよう努力を重ね、自らの夢と目標に向かって積極的に臨んでください。

1. 総 説

- (1) 授業科目は、教養科目、専門科目に区分される。
- (2) 本学を卒業するためには、2年以上在学し、「4. 単位の修得区分」（P. 27）にしたがって62単位以上を修得しなければならない。
- (3) 単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
 - ① 講義については、毎週1時間15週の授業をもって1単位とする。
 - ② 演習、実験、実習および実技については、毎週2時間15週の授業をもって1単位とする。

ただし、保育・教職実践演習および教育心理学は、毎週2時間15週の授業をもって2単位とする。

- (4) 授業科目は、在学中に変更になる場合がある。この場合、年度始めのオリエンテーション等で説明があるので、必ず出席して、学生生活ハンドブックに追記しなければならない。

2. 履修の手続

- (1) 学生は本学の授業科目のうち、いずれの科目を履修するかは自分で決定しなければならない。なお、履修できる科目は指定された授業科目表、シラバス（授業計画）および授業時間割に基づくものとする。
- (2) 履修の種類には、A. 通常履修（再履修含む）、B. その他の履修（a. 変則履修 b. 他大学の専門科目履修）がある。履修登録にあたっては、『履修登録の手引』（別途配布）および学生生活ハンドブック〔6〕授業科目の履修について（単位の修得区分等）をよく読み、間違いのないように手続きしなければならない。
 - A. 通常履修…自分の所属する学科・学年・組で授業時間割表に表示されている科目の履修
「通常履修」の場合は、学内ネットワーク〔Melos：総合情報システム（以下「Melos」という。）〕に接続されたパソコン端末を用いて履修登録をする。
 - B. その他の履修…通常履修以外の履修（自分の所属する学科・学年・組以外で開講されている科目の履修）
※「その他の履修」の履修登録は、教務担当で行う。所定の「願用紙」を受け取り、必要事項を記入して教務担当に提出する。
- (3) 履修登録されない科目は、受講することができない。従って受験も認められず単位認定も行われない。
- (4) 履修登録期間が終了した後の履修変更は、原則としてできない。ただし、試験の結果必要が生じた場合には、認めることもある。
- (5) 履修について指導教員および授業担当教員とよく相談し、正しい履修をするよう心掛けること。
- (6) 履修登録の結果授業を登録した人数が10人未満の授業科目については、開講しないこともある。

3. 履修科目の登録の上限

1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成されている。したがって、学生は、一つ一つの授業において、主体的に学習に取り組むとともに、教室における授業と教室外の学習を合わせて十分な学習量を確保することが必要である。

このため、本学においては1学期に履修登録できる単位数に上限を設けて、学生の充実した学習を期するものとする。

- (1) 学生は本学の授業科目を履修するにあたって、原則として次に示すような単位数を越えて履修することはできない。
 - a. 1学期の履修科目の総単位数は、20単位を越えてはならない。
 - b. この場合、本学において免許や資格を取得するために必要な科目単位数は、この20単位に算入しない。

c. ただし、本学において免許や資格を取得するために必要な科目の単位数を算入した場合でも、1学期の履修科目の総単位数は26単位を越えてはならない。

* 通年科目の単位数は、その2分の1を1学期の単位数として算入する。

- (2) 学生は履修科目の登録の上限を厳守し、教室における授業と教室外の学習を合わせて、効果的な学習の成果をあげるよう努めなければならない。
- (3) 上記(1)で定めた上限一杯の単位数を優れた成績で修得した学生については、その上限を越えて履修科目の登録をすることができる。
- (4) 履修科目を登録するにあたって、学生は指導教員とよく相談し、みずからの学習目標にふさわしい履修計画を立てるよう心掛けなければならない。

4. 単位の修得区分

卒業に必要な62単位以上は、つぎの区分にしたがって修得しなければならない。

教 養 科 目	英語Ⅰ 1単位 体育実技Ⅰ 1単位 スポーツと健康 2単位 並びに英語Ⅱ、仏語、中国語、ポルトガル語から1科目1単位以上を含め8単位以上
専 門 科 目	必修36単位を含め46単位以上
教 養 科 目 専 門 科 目 他大学の科目 (単位互換科目)	※8単位以上
計	62単位以上
備 考	<ol style="list-style-type: none"> (1) この表の単位数は最低限を示すものであるから、それ以上履修することがのぞましい。 (2) 他大学の科目の履修は、他大学において指定された科目（単位互換科目）に限り認められる。 (3) 他大学の科目の履修を認めた科目は、6単位を越えない範囲で卒業単位数に算入することができる。 (4) 他大学の単位互換科目についてはP.38ページを参照すること。 (5) 上記※の単位は、「教養科目」「専門科目」「他大学の科目」（単位互換科目）のいずれかで満たしてもよい。

5. 授業科目表

〔教養科目〕

科 目	単位数		開 講 時 期				卒業最低 単 位 数	教員免許状 最低単位数	保育士資格 最低単位数	備 考
	必修	選択	1 年		2 年					
			前期	後期	前期	後期				
心 理 学		2	○				英語Ⅰ 1単位 体育実技Ⅰ 1単位 スポーツと 健康 2単位 及び	英語Ⅰ 1単位 体育実技Ⅰ 1単位 スポーツと 健康 2単位 及び	英語Ⅰ 1単位 体育実技Ⅰ 1単位 スポーツと 健康 2単位 及び	
文 化 人 類 学		2		○						
文 学		2		○						
くらしと法律		2			○					
生命・環境のサイエンス		2		○						
スポーツと健康	2					○	英語Ⅱ、仏 語、中国語、 ポルトガル 語のうちか ら 1単位以上 を含め 8単位以上	英語Ⅱ、仏 語、中国語、 ポルトガル 語のうちか ら 1単位以上 を含め 8単位以上	英語Ⅱ、仏 語、中国語、 ポルトガル 語のうちか ら 1単位以上 を含め 8単位以上	
英 語 Ⅰ	1		○							
英 語 Ⅱ	1					○				
仏 語	1				○					
中 国 語	1				○					
ポルトガル語	1				○					
体育実技Ⅰ	1		○							
体育実技Ⅱ	1					○				
大 学 入 門		2								
小 計	4	17								8単位以上

〔専門科目〕

科 目	単位数		開 講 時 期				卒業最低 単 位 数	教員免許状 最低単位数	保育士資格 最低単位数	備 考
	必修	選択	1 年		2 年					
			前期	後期	前期	後期				
保 育 者 論	2		○				●	▲		
教 育 原 理	2		○				●	▲		
教 育 心 理 学	2			○			●	▲		
保 育 課 程 総 論	2			○			●	▲		
保 育 内 容 の 基 礎	1		○				●	▲		
健 康 指 導 法 I	1			○			●	▲		
健 康 指 導 法 II		1			○		●	△		
人 間 関 係 指 導 法	1					○	●	▲		
環 境 指 導 法	1				○		●	▲		
言 葉 指 導 法	1					○	●	▲		
音 楽 表 現 指 導 法 I	1			○			●	▲		
音 楽 表 現 指 導 法 II		1			○		●	△		
造 形 表 現 指 導 法 I	1			○			●	▲		
造 形 表 現 指 導 法 II		1			○		●	△		
臨 床 心 理 学	2				○		●	△		
実 習 基 礎		1	○				●	▲		
総 合 演 習	1			○			●	▲		
教 育 実 習		4		○	○					
実 習 サ ポ ー ト		1		○	○					
保 育 ・ 教 職 実 践 演 習	2					○	●	▲		
器 楽 I	1		○				●	▲		
声 楽	1		○				●	△		
基 礎 造 形	1		○				●	▲		
幼 児 体 育	1		○				●	▲		
児 童 文 学	1				○		●	▲		
子 ど も の 生 活	1			○			●	△		
保 育 実 習 (保 育 所)		2			☆	☆		▲		
保 育 実 習 (施 設)		2			☆	☆		▲		
実 習 指 導 I	2			○	○			▲		
発 達 心 理 学	2		○				●	▲		
児 童 家 庭 福 祉	2		○				●	▲		
社 会 福 祉		2				○		▲		
相 談 援 助		1				○		▲		
保 育 原 理	2			○				▲		
社 会 的 養 護	2			○				▲		
子 ど も の 保 健 I	4				○	○		▲		
子 ど も の 保 健 II	1					○		▲		
乳 児 保 育	2				○	○		▲		
子 ど も の 食 と 栄 養	2				○	○		▲		

● 印 36 単位必修を含め 46 単位以上。これにさらに 8 単位以上を加えて 54 単位以上。 ※参照

■ 印 32 単位必修、□ 印から 4 単位を含め 46 単位以上。これにさらに 8 単位以上を加えて 54 単位以上。 ※参照

▲ 印 55 単位必修及び △ 印から 10 単位以上選択必修 合計 65 単位以上

* 印は開放科目

*

専門科目 次のページへ続く

〔専門科目〕

前のページから続く

科 目	単位数		開 講 時 期				卒業最低 単 位 数	教員免許状 最低単位数	保育士資格 最低単位数	備 考
	必修	選択	1 年		2 年					
			前期	後期	前期	後期				
保育実習Ⅱ		2				○			△	*印は開放科目
保育実習Ⅲ		2				○			△	
実習指導Ⅱ		1				○			△	
実習指導Ⅲ		1				○			△	
生涯発達心理学		2			○				△	
社会的養護内容		1			○				▲	
障害児保育		2			○	○			▲	
保育相談支援		1			○				▲	
児童文化		1		○					△	
子どもと造形		1				○			△	
器 楽 Ⅱ		1		○					△	
器 楽 Ⅲ		1			○				△	
家庭支援論		2				○			▲	
保育技術演習	1			○			●		△	
子どもとスポーツ		1		○					△	
日本国憲法		2	○					■		
コンピューター概論		2	○				●	■		
基礎演習		1	○				●			
特殊演習		2			○	○	●			
小 計	36	52					54 単位以上	54 単位以上	65 単位以上	
総単位数	39	68					62 単位以上	62 単位以上	73 単位以上	

- 注 1. ☆印はクラスにより開講時期が異なることを示す。
 2. 幼稚園教諭二種免許状の取得条件については P.32・33 を参照。
 3. 保育士資格の取得条件については P.34～37 を参照。
 4. 開講時期については、若干変更されることがある。

※ この「8 単位以上」には、教養科目、専門科目、他大学の科目（単位互換科目）のいずれの取得単位であっても、それを算入することができる。ただし、他大学の科目（単位互換科目）は、6 単位までしか卒業単位数に算入できない。詳しくは P.27 を参照。

6. 特殊演習

2年次通年で開講される特殊演習（2単位）を卒業必修として課している。特殊演習は、教員がそれぞれに研究テーマを設定し、学生と教員がともに研究・討議する科目である。保育科2年次学生は専任教員が担当するいずれかの特殊演習を履修し、主体的に研究を進め、その成果をレポートや作品等にまとめる。

特殊演習の内容及び登録方法については、別にオリエンテーションを行う。なお、原則として特殊演習登録後の変更は認めない。

7. 各種資格取得の手続について

- (1) 幼稚園教諭二種免許状・保育士証の資格取得を希望する者は、各資格取得のための履修願と別に定める費用を納付しなければならない。
- (2) 費用を納付し、必要単位を修得した者は、各該当免許状の申請ができる。
- (3) 申請の手続は所定期間内に所定事項記載の書類を確実に提出した者に対してのみ行う。所定期間内に所定手続を行わなかった者は、免許状取得資格を放棄した者とみなし処理する。
- (4) これに伴う費用は一切返却しない。

8. 免許・資格について

〔1〕幼稚園教諭二種免許状の取得条件

幼稚園教諭二種免許状の取得を希望する者は、本学の卒業資格を得た上、教育職員免許法及び同法施行規則に定める科目及び単位を修得しなければならない。

(1) 教養科目

科 目	単 位 数	免許取得最低単位数	備 考
心 理 学	2	★印4単位必修及び※印から1単位以上選択必修を含め8単位以上	
文 化 人 類 学	2		
文 学	2		
く ら し と 法 律	2		
生命・環境のサイエンス	2		
ス ポ ー ツ と 健 康	★ 2		
英 語 I	★ 1		
英 語 II	※ 1		
仏 語	※ 1		
中 国 語	※ 1		
ポ ル ト ガ ル 語	※ 1		
体 育 実 技 I	★ 1		
体 育 実 技 II	1		
大 学 入 門	1		

(2) 専門科目

科 目	単 位 数	免許取得最低単位数	備 考
日 本 国 憲 法	2	2	
コ ン ピ ュ ー タ ー 概 論	2	2	

(3) 教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分		本学での開講科目		
科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	
			必修	選択
国 語	4	児 童 文 学		1
音 楽		器 楽 I		1
図 画 工 作		基 礎 造 形		1
体 育		幼 児 体 育		1
生 活		子 ど も の 生 活		1
計	4	計		5

(4) 教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分		本学での開講科目	
科目	各科目に含める必要次項	単位数	授業科目 単位数
教職の意義等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等 	2	保育者論 2
教育の基礎理論に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 	4	教育原理 2
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） 		教育心理学 2
教育課程及び指導法に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法 ・保育内容の指導法 	12	保育課程総論 2
			保育内容の基礎 1
			健康指導法Ⅰ 1
			健康指導法Ⅱ 1
			人間関係指導法 1
			環境指導法 1
			言葉指導法 1
			音楽表現指導法Ⅰ 1
			音楽表現指導法Ⅱ 1
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）理論及び方法 	2	臨床心理学 2
教育実習		5	実習基礎 実習サポート 教育実習 6
教職実践演習		2	保育・教職実践演習 2
計		27	計 28

【幼稚園教諭二種免許状の申請手続き】

幼稚園教諭二種免許状の取得に必要な単位を修得した者は、愛知県教育委員会に申請手続きを行う。

- 申請手続きは、大学で一括して行う。大学での一括申請は、所定期間内に所定手続きを確実に行った者に対して行う。

※所定期日内に所定手続きが未完了であった場合、また所定期日までに単位不足等必要科目が修得できない場合は、個人で申請することとなるので十分に注意すること。

- 申請手続きにかかる費用（平成27年度実績3,400円）
申請手続き後はいかなる理由があっても費用の返却は行わない。
- 幼稚園教諭二種免許状の授与権者は愛知県教育委員会である。
授与年月日は卒業の日付で、卒業時に交付する。

【お問い合わせ先】愛知県教育委員会 教職員課 教員免許グループ

TEL 052-954-6772

〔2〕保育士資格の取得条件

保育士の資格を得ようとする者は、保育科に在籍し、児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法に基づく科目並びに単位を別に定める細則により取得しなければならない。

(1) 教養科目

【基礎科目】

告示による教科目				本学での開講科目					備考 (変更内容 の概要等)
系列	教科目	授業 形態	単位数	左に対応して開設 されている教科目	授業 形態	単 位 数			
						必修	選択	計	
教 養 科 目	外国語、 体育以外 の科目	不問	6 単 位 以 上	心理学	講義		2	2	4科目より 1科目選択 必修
				文化人類学	講義		2	2	
				文学	講義		2	2	
				くらしと法律	講義		2	2	
				生命・環境のサイエンス	講義		2	2	
				大学入門	講義		2	2	
	外国語	演習	英語Ⅰ	演習	1		1		
			英語Ⅱ	演習		1	1		
			仏語	演習		1	1		
			中国語	演習		1	1		
			ポルトガル語	演習		1	1		
	体育	講義 実技	1	スポーツと健康	講義	2		2	
			1	体育実技Ⅰ	実技	1		1	
体育実技Ⅱ				実技		1	1		
合 計		10 単位以上				4	17	21	
				21 単位 (≥10 単位)					

(2) 専門科目（必修科目と選択必修科目）

【必修科目】

この「必修科目」欄の科目は、すべて履修しなければならない。

告示別表第1による教科目				本学での開講科目					備考 (変更内容の概要等)
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数			
						必修	選択	計	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義		2	2	
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		2	
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義	2		2	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義		2	2	
	相談援助	演習	1	相談援助	演習		1	1	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義		2	2	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		2	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	講義	2	発達心理学	講義	2		2	
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	教育心理学	演習	2		2	
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	子どもの保健Ⅰ	講義		4	4	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	子どもの保健Ⅱ	演習		1	1	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習		2	2	
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義		2	2	
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2		2	
	保育内容総論	演習	1	保育内容の基礎	演習	1		1	
	保育内容演習	演習	5	健康指導法Ⅰ	演習	1		1	
				人間関係指導法	演習	1		1	
				環境指導法	演習	1		1	
				言葉指導法	演習	1		1	
				音楽表現指導法Ⅰ	演習	1		1	
	造形表現指導法Ⅰ	演習	1		1				
	乳児保育	演習	2	乳児保育	演習		2	2	
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習		2	2	
社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習		1	1		
保育相談支援	演習	1	保育相談支援	演習		1	1		
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	器楽Ⅰ	演習	1		1	
				基礎造形	演習	1		1	
				幼児体育	演習	1		1	
				児童文学	演習	1		1	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習（保育所）	実習		2	2	
				保育実習（施設）	実習		2	2	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	実習指導Ⅰ	演習		2	2	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習	演習	2		2	
				実習基礎	演習		1	1	
				総合演習	演習		1	1	
合計			51単位				26	29	55
				55単位（≧51単位）					

注1

注1：「実習指導Ⅰ」2単位は、「保育実習（保育所）」2単位と「保育実習（施設）」2単位を取得した場合にのみ認定される。

【選択必修科目】

この「選択必修科目」の欄の中からは、10 単位以上履修しなければならない。そのうち、「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」を必ず含めなければならない。

別表第2による教科目				本学での開講科目					備 考 (変更内容の概要等)	
系 列	教 科 目	授業 形態	単位数	左に対応して開設 されている教科目	授業 形態	単 位 数				
						必修	選択	計		
保育の本質・ 目的に関する 科目 保育の対象の 理解に関する 科目 保育の内容・ 方法に関する 科目 保育の表現技術	各指定保育士養成施設 において設定		15 単 位 以 上							
				子どもの生活	演習	1		1		
				生涯発達心理学	講義		2	2		
				臨床心理学	講義	2		2		
				健康指導法Ⅱ	演習		1	1		
				音楽表現指導法Ⅱ	演習		1	1		
				造形表現指導法Ⅱ	演習		1	1		
				児童文化	演習		1	1		
				保育技術演習	演習	1		1		
				器楽Ⅱ	演習		1	1		
				器楽Ⅲ	演習		1	1		
				声楽	演習	1		1		
				子どもと造形	演習		1	1		
				子どもとスポーツ	演習		1	1		
保育実習	保育実習Ⅱ又は保 育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習		2	2	} いずれかを 選択必修 注2	
				保育実習Ⅲ	実習		2	2		
	保育実習指導Ⅱ又 は保育実習指導Ⅲ	実習	1	実習指導Ⅱ	演習		1	1	} いずれかを 選択必修 注3	
				実習指導Ⅲ	演習		1	1		
合 計		18 単位		21 単位 (≥18 単位)						

注2：「保育実習Ⅱ」及び「保育実習Ⅲ」については、どちらかの1科目のみを選択できる。

注3：「保育実習Ⅱ」を選択した場合は「実習指導Ⅱ」を、「保育実習Ⅲ」を選択した場合は「実習指導Ⅲ」を履修すること。

「実習指導Ⅱ」1単位および「実習指導Ⅲ」1単位は、それぞれ「保育実習Ⅱ」2単位または「保育実習Ⅲ」2単位を取得した場合のみ認定される。

	本学での開講科目					備 考
	左に対応して開設 されている教科目	授業 形態	単 位 数			
			必修	選択	計	
保育士資格取得科目 ではないが、学校独 自の科目として開設 されている教科目	教育実習	実習		4	4	
	実習サポート	実習		1	1	
	基礎演習	演習	1		1	
	特殊演習	演習	2		2	
	日本国憲法	講義		2	2	
	コンピューター概論	講義	2		2	
	合 計			5	7	

教科目の種別	設置単位数	単 位 数			備 考
		必修	選択	計	
教養科目	8 単位以上	4	17	21	
告示別表第 1 による教科目	51 単位以上	26	29	55	
告示別表第 2 による教科目	18 単位以上	5	16	21	
小 計		35	62	97	
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目と して開設されている教科目		5	7	12	
合 計		40	69	109	
卒業に必要な単位数		40	22	62	

【保育士の申請手続き】

保育士資格の取得に必要な単位を修得した者は、保育士登録事務処理センターに登録申請を行う。

- 申請手続きは、大学で一括して行う。大学での一括申請は、所定期間内に所定手続きを確実に行った者に対して行う。

※所定期日内に所定手続きが未完了であった場合、また所定期日までに単位不足等必要科目が修得できない場合は、個人で申請することとなるので十分に注意すること。

- 申請手続きにかかる費用（平成 26 年度実績 4,200 円）
申請手続き後はいかなる理由があっても費用の返却は行わない。
- 保育士証の交付は卒業後各自へ郵送される。
- 保育士証の授与権者は各都道府県知事である。

【お問い合わせ先】保育士登録センター TEL 0120-041-943

9. 学外実習予定

幼稚園教諭二種免許状、保育士の資格を取得しようとする者には、次の予定で学内及び学外実習が実施される。

実習科目	単位数	開講時期	開講年次
教育実習	4 単 位	10月～2月	1 年 次
		6 月	2 年 次
実 習 サ ポ ー ト	1 単 位	10月～3月	1 年 次
		4月～9月	2 年 次
保 育 実 習 (施 設) 居住型児童福祉施設	2 単 位	5月～8月	2 年 次
保 育 実 習 Ⅲ	2 単 位	10月～11月	2 年 次
保 育 実 習 (保 育 所)	2 単 位	8月～9月	2 年 次
保 育 実 習 Ⅱ	2 単 位	10月～11月	2 年 次
実 習 指 導 Ⅰ	2 単 位	9月～3月	1 年 次
		4月～9月	2 年 次
実 習 指 導 Ⅱ	1 単 位	9月～3月	2 年 次
実 習 指 導 Ⅲ	1 単 位	9月～3月	2 年 次

10. 他大学の科目の履修

学則第5章、第14条、第15条、第16条に基づき、保育科の学生が他大学の科目を履修して修得した単位には、本学における授業科目の履修単位として認定できるものがある。

(1) 他大学の科目（単位互換科目）の履修

イ. 名古屋経済大学の科目履修

名古屋経済大学の経済学部、経営学部、法学部の1、2年次を対象に半期で開講される科目には、本学の学生が単位互換科目として履修できるものがある。

単位互換の対象となる科目は、科目担当者の許可を受け6単位を越えない範囲で卒業単位に算入することができる。

履修科目、履修手続きの詳細は、教務担当にて問い合わせること。

ロ. 愛知学長懇話会の「単位互換に関する包括協定」で定められた他大学の科目の履修

履修科目、履修手続きの詳細は、教務担当窓口に備えつけの該当年度の「単位互換履修生（特別聴講学生）募集要項」を参照し、問い合わせること。